

■子丑天中殺(初代運の星) 親(父親)と子供の運気がシーソー(ゲーム)になる

子丑天中殺の人の生き方は、この中殺がもつ「初代運」という宿命の本質から来ています。

「初代」というのは、「自分の代から、ものごとが始まる」ということです。

つまり、その人が「一代目」だということです。ですから子丑天中殺は、ズバリいって親とか目上の人との関係がうすいのです。

資料「中殺の方位」を見て頂くとお解りのように、北方が中殺によって欠落することになり、本能的に正反対の南方に位置しているものを求めることになるからです。

それも、特に子丑天中殺の人は父親との関係がうすくなるのが特徴なのです。

親との縁がうすい、それも父親との縁が特に薄くなるということは、逆に言って親離れが早ければ早い程、子丑天中殺の特徴が早く発揮されるということです。

たとえば、親が実業家だったり、商人だったとしましょう。そこの長男として生れた子供は跡取りとなって家を継ぐでしょうし、もしも一人っ子の娘さんならお婿さんを迎えて同様に代を継がせるのが普通でしょう。いわば、「二代目」「三代目」です。

ところが、その子供が子丑天中殺だとしますと、親が望むように、二代目・三代目にはなりにくいのです。

一般常識では計りがたいのが「天中殺」の宿命なのです。

親の後を継いだり、保護を受けたりするということは、子丑天中殺の宿命からはずれていることです。当然そこに” ひずみ ” が生じてくるのです。(なにか、燃焼しきれないものが心のうちに残って絶えず不満がくすぶることになるのです。)

親の恩恵を受けずに、自分の代から自分の人生を築いていくのが「初代運」ですから、その子丑天中殺の子供は、早くから家を出たがったり、自分の好きな職業へ進んで行こうとする傾向があるのです。(その方が早く自分の運を掴むことになるのです。)

もしもその時、親の権力が強くて、無理に子丑天中殺の子供を二代目に据えたとしましょう。

そうしますと、その子丑天中殺の子供には不満が高じて、やがては自分の好きな方向へ進む結果となるのです。(そのとき、やっと自分の運が活動をはじめて「自立」することになるのです。)

子丑天中殺の子供なら、どんなに苦労が多そうに見えても、親と違う道へ進んでいけば、必ず、いつか満足できるような運をつかむことが出来ます。また、それだけの力を持っている人なのです。

子丑天中殺の人は、他人にはおだやかで、やさしく接することが出来る人です。

ところが、何故か、親に対するときだけは自分でも理由が解らぬまま、とげとげしてみたり、反発してしまいがちになるのです。

それでいて、いつもそういう自分に対して、嫌悪感を感じたり、腹が立ったりするのです。

結局のところは、(子丑天中殺は)早く自分の道を進むしかないのです。

そして、それが本当の ” 親孝行 ” にもなるのです。(アパートで一人暮らしを始めたり、学生なら海外に留学するのもよいでしょう。)

子丑天中殺の人は、宿命的に親の跡を継がないという運の基本をもっているのですが、たとえば子丑天中殺の人が次男とか三男ならあまり問題が難しいことにはならないでしょうが、もしも、長男として生まれるとか、一人っ子だとすると、跡継ぎという問題ではたいへん難しいことになってしまいます。

親の望むようにならない初代運ですから、跡目問題のときには必ずと言っていい程、中殺の異常現象で悩みごとが重なります。(天中殺の不思議ともいえることなのですが、傍目からみれば常識では考えられないひずみが生じてくるのです。ある意味では、子丑天中殺の子供を持ったということは、その親にしてみれば子供運がないということです。ですから、逆に子供の側からすれば、親の職業が、是非とも継いでもらいたいような職業でなかったり、財産が無い方が、むしろ幸せだということも言えるでしょう。)